

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月13日

事業所名 ひとつむぎ小浜

	チェック項目	はい	どちらとも いえない		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			○			児童の増加及び成長に伴い、活動スペースの確保が難しい状況が多い。構造化を図り、児童が理解しやすい環境を提供していきたい。
	2 職員の配置数は適切である			○			基準上の配置では日々の支援が難しい場面も多々あるため、状況に応じた調整が必要である。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている				○		
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している				○		業務が多岐にわたるため、職員間での情報共有がスムーズにできるような仕組み作りが必要である。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				本評価表とは別に保護者向けイベント内でもアンケートを実施し、意見を取り入れている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○					
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				○		現状、外部評価は行っていないため、質の向上を図る一環として取り入れることも検討したい。
適切 な 支 援 の 提 供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○				外部研修や社内研修の機会を定期的に設けている。	
	9 子どものニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○	○			発達検査や作業療法の結果等も踏まえ、ニーズおよび発達課題に合わせた支援計画を立てるようにしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○			現在、アセスメント項目についての見直しを行っている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○				職員間で協議し、立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○				季節を感じてもらえるようなプログラムや、苦手課題の克服も行えるようなプログラムにしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している			○		長期休暇は、平日の放課後では出来ない活動を取り入れ支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○				職員間で日々話し合いを行い、状況把握、課題整理をしている。	集団活動は全員を対象にして行うため、年齢的に興味を示さない児童もいる。興味の幅や活動領域が広がるような工夫をしながら支援していきたい。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○					打ち合わせをしてはいるが、時間が足りず不十分な内容で終わってしまうことも多いため、役割分担等をより明確にする必要がある。

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○			現状終礼等ができない状況であるため、情報共有ができる仕組み作りが必要。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎日記録をとり、保護者に報告するとともに職員間で共有している。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				最低でも半年に1度モニタリングを行い、計画見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				児童発達支援管理責任者が参加し、全スタッフに共有している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			送迎時に時間を有効に活用し、情報共有している。	学校によっては提供してもらえないところもあったり、下校時刻等、実際にならないと分からないところもあったりすることから日々の情報収集はより丁寧にする必要がある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/			現在、該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				担当者会議等を通じて、情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	/			現在、該当者なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				○		コロナ禍のため外部との関わりや活動は極力控えている状況ではあるが、活動領域を広げるという意味でもこういった活動について検討していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○				毎月の協議会主催の事業所連絡会に参加し、情報共有をしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送迎の時間等にご様子を伝えたり、家庭での様子を伺ったり、日頃から状況を共通理解できるように努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○				現状、ペアレントトレーニングは実施していないため、今後の支援の一環として取り入れることも検討したい。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に児童発達支援管理責任者からひとつずつ説明している。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				今年度から保護者会を実施し、保護者同士が繋がれる場を提供している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				職員間での情報共有、収集を行い、迅速に対応するよう努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○				会報等の発行はできていないが、日々の活動の状況については、写真付き連絡帳を活用し保護者に様子、言動等を共有している。
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報は鍵付きキャビネットに保管し、管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○					視覚支援を活用したり、毎日のプログラムのなかで取り入れながら支援している。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○			
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○				各種マニュアルは作成しているが、保護者への伝達が不十分であるため、今後全保護者に対して説明していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○					
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○					そのような場面は現状ないが、組織的に理解し、今後利用される保護者に対しては十分に説明をしていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			○			現状作成できていないため、該当する情報共有をはじめ、作成するよう努めたい。